

INFORMATION RELEASE

ミサワホーム株式会社 〒163-0833 東京都新宿区西新宿 2-4-1 Tel.03(3349)8088 (広報直通)

2020年8月21日

第14回キッズデザイン賞を受賞

- 家族の豊かな暮らしとレジリエンス力を両立した「CENTURY Stylepro」など4点が受賞
- 単独受賞2点、自治体や社会福祉法人、学校法人等との共同受賞2点
- キッズデザイン賞創設以来14年連続受賞、通算受賞点数は58点に

ミサワホーム株式会社(代表取締役社長執行役員 磯貝匡志)は、第14回キッズデザイン賞(主催 特定非営利活動法人キッズデザイン協議会/後援 経済産業省、内閣府、消費者庁)において、住宅や保育施設、育児に関する研究・調査の4点を受賞しました。これにより、当賞創設以来14年連続での受賞となり、通算受賞数は58点となりました。

<第14回キッズデザイン賞 受賞作品>



CENTURY Stylepro



CENTURY Stylepro HIRAYA



コピープリスクールさかい

<子どもたちを産み育てやすいデザイン部門>

①CENTURY Stylepro

②CENTURY Stylepro HIRAYA

家族の豊かな暮らしとレジリエンス力を兼ね備えた企画住宅

<子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門>

③コピープリスクールさかい

地域の多様な交流を創出し、子どもの好奇心を刺激する仕組みで豊かな感性を育む保育園*

④保育所における1歳児の「主体的な活動」

からみた空間・環境に関する研究

子どもが主体的に遊び、健やかに生活できる良質な保育環境づくりを目指したミサワホーム総合研究所他の研究*

※他法人との共同受賞です。



キッズデザイン賞は多様なステークホルダーとともに子どもの未来が明るいものであるように、デザインの視点から取り組む素晴らしい作品を顕彰するものです。子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・空間・サービス・活動・研究を対象としています。

ミサワホームは、住まいは「単まい」の理念のもと、これからの未来を担う子どもたちのためにできることを真摯に考え、住まいづくりに取り組んできました。その成果はキッズデザイン賞創設以来の14年連続受賞という実績にも表れています。今後も子どもが安全・安心に、豊かな創造性を育む住まいを提案し、より子どもを産み育てやすい社会づくりに貢献できるよう、研究・開発に努めていきます。

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門

① CENTURY Stylepro ② CENTURY Stylepro HIRAYA

リモートワークの浸透や感染症対策により在宅時間は増加。暮らしが大きく変化する中で、これからの家族の関係や、子どもの成長サポート、安心・安全などに関して新たな生活提案を盛り込んだ企画商品です。作業になりがちな家事を、子どもと一緒にいき家族時間の創出につながる‘家事シェア’として提案。さらにスキップフロアや子どもの成長に合わせた可変性の高い設計で、ライフステージの変化に柔軟に対応します。さらに、家庭内事故だけでなく自然災害などにも対応し、家族の豊かな暮らしとレジリエンス力を兼ね備えた「子育てサポート住宅」です。

【CENTURY Stylepro】



都市近郊の限られた敷地で暮らし方が変化する中でも、家族とのつながりを感じられる住まいです。アイランド型の「シームレスキッチン」は“家事シェア”を実現。1.5階のスキップフロア「ホーム commons」は明かり窓を通してリビングと立体的につながります。

【CENTURY Stylepro HIRAYA】



自然と暮らす郊外向けの平屋住宅です。平屋でありながら2層のスキップフロアで構成。1階は庭とのつながりを活かした「アウトリビングスタイル」、1.5階はプライバシー確保と最短の作業動線を両立した「サニタリー設計」が特徴です。

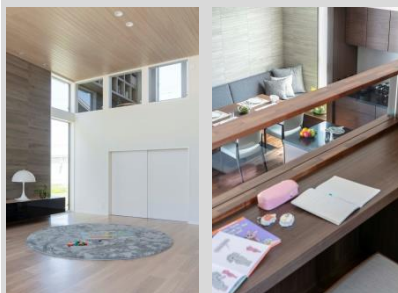
【家事×つながり】



同時に作業しやすい
「シームレスキッチン」

毎日の家事も親子で同時にシェアすれば、子どもと触れ合う大切な時間となります。「シームレスキッチン」「リビング蔵」等、水廻りを意識した生活動線を取り入れ、家事を効率化。家事そのものを愉しむことで家族の絆を深めます。

【成長×つながり】



リビングとほどよくつながる
「ホーム commons」

家具の配置変更が容易な高天井・大空間の「シーズンリビング」や、リビングとほどよい距離感を持たせる1.5階スキップフロア「ホーム commons」は、子どもの成長にあわせてアレンジ可能。成長をサポートする可変性の高い設計です。

【安心・安全×つながり】



防災用品を大量にストック
「リビング蔵」

建物には強固な構造体「センチュリーモノコック」を採用し、万が一の災害時も家族を守りつづける住まいです。リビングに設けた大収納空間「蔵」は、片付けをアシストし家庭内事故を防止。また非日常の危険に備える防災備蓄庫の役割も担います。

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門

③ コピープリスクールさかい

当施設はミサワホームが設計を担当し、社会福祉法人コピーソシオ（本部 東京都目黒区／理事長 小林照男）が運営を行っている茨城県境町の保育園です。

遊休施設を活用しており、日中は保育園、夜間・休日は地域住人が利用できるスポーツ施設としてハイブリッドに活用できる、地域の交流拠点となっています。人の往来が多い玄関を拡大し、利便性を向上させたほか、保護者・スタッフ間の交流創出を図りました。さらに開放的な見えるキッチンを設置することで、子どもに「食」への好奇心を抱かせ、豊かな感性や創造性を育みます。

※ミサワホーム、境町、コピーソシオ、あまね設計の4者共同の受賞



送迎にゆとりを持たせ、交流機会を創出する広い玄関

「食」への興味を抱かせる開放的なキッチン

④ 保育所における1歳児の「主体的な活動」からみた空間・環境に関する研究

近年需要が高まる1歳児の保育に着目し、子どもが主体的に遊び、健やかに生活できる良質な保育環境づくりを目指した研究です。建築設計を通して子どもの主体的な活動を援助するには、子どもの「待つ」場面を減らし、自分で身の回りのことをしやすい空間を用意することが重要であり、行為の流れに沿って部屋を移動する「スライド型」の空間構成、玄関等の設計を工夫することが有効とわかりました。また、遊びを通して多様な身体経験を確保するためには、外遊び環境を充実させ、園庭内の遊具や自然物など「物的環境要素」を豊かにすることが効果的です。

※ミサワホーム総合研究所、コピーアンドアソシエイツ、コピーソシオ、日本女子大学定行まり子研究室の4者共同実施の研究・調査

		食事から午睡への移行場面に着目した空間構成	
		スライド型	ハブ型
空間構成		食事から午睡の行為の流れに沿って、行為ごとに利用空間をスライド移動する <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> 午睡 ← 排泄 ← 着替 ← 食事 </div> <p style="text-align: center; color: red;">20人以上時は特にスライド型が◎</p>	午睡に使用する室を中心点に、隣接する位置にある食事室とトイレを行き来する <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; gap: 10px;"> 排泄 ↔ 午睡 ← 食事 </div> <p style="text-align: center;">着替 同室</p>
長所		1スペース・1行為の対応関係であるため、落ち着いた環境の中で着替えや午睡に入ることが可能 子どもが待つ場面も比較的少ない	保育者が1か所(1室)で同時に複数行為に対応しやすい、動線が短い
短所		ハブ型に比べ保育者の人数を多く必要とする、動線が長くなる	午睡室で複数行為(着替え/午睡/排泄の順番待ち)が混在し午睡環境の落ち着きが確保しづらい

行為の流れと重なり方を視野に入れた平面計画

この研究はミサワホーム総合研究所ホームページにて公表されています。(<https://soken.misawa.co.jp/news/20200807/1613/%29>)

以上

* この件に関するお問い合わせ先 *

ミサワホーム(株) 経営企画部コーポレートコミュニケーション課 奥本博之 星 沙織

TEL : 03-3349-8088 FAX : 03-5381-7838

E-Mail : Saori_Hoshi@home.misawa.co.jp